

近詠五首

秋風の吹上げの濱の朝月夜なくこゑきよし天のたつむら  
ちり残るならの枯葉に三日月のはのかにかゝる秋の暮哉  
吾庵のかきはの谷の岩清水くもいくゑへて世に出てぬらん  
かたりつゝ眺めあかしゝ月影を今夜はきみか魂祭りして  
國の爲めこゝろつくしの筑紫櫛たゝ一筋にさしてこそ行け

旅中にてよめる

松 露 生

かち枕樂しきともありそみの波のまにくうくもある哉

隱岐にてよめる

海原のたきを遙に尋ねきて昔まのふの艸のつくけさ

後鳥羽院の御陵に詣てゝ

まこはらを川田の里の御陵にうらみわの松風を吹く

月前鹿

天 山 生

澄昇る月見んとてや高砂のをのへに高くさをしかのなく

溪 川 生